

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1142 号	氏名	崎原通乃
学位審査委員	主査 渡邊郁哉 副査 村田比呂司 副査 吉村篤利		
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は、高強度樹脂ポリエーテルケトンケトン (PEKK) を用いた歯冠修復ならびに補綴治療を行う際に問題となる前装材料との接着耐久性の不足を被着体の表面処理によって解決し、その接着メカニズムを明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>歯科用 PEKK 材に対する前装用コンポジットレジン接着強さを改善するプライマーならびに薬液エッチングが何であるかを接着耐久試験や走査型顕微鏡観察等を用いて明らかにするようデザインし、得られた接着強さを適切な統計学的解析法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、既存のプライマー成分としてはリン酸エステル系モノマーの接着改善効果が比較的高いこと、さらに、硫酸や新規性のビニルスルホン酸 (VSA) による一定条件のエッチング処理によって接着耐久性が著しく改善され、その主な要因が接着界面の微小機械的維持であることを明らかにした。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の歯科材料開発、研究の展開、臨床への応用が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は歯科補綴学的研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (歯学) の学位に値するものと判断した。</p>			